

JIS

UDC 669.1 : 543.062 : 546.56

G 1219

鉄及び鋼 — 銅定量方法

JIS G 1219⁻¹⁹⁹⁷

(2003 確認)

(2008 確認)

平成 9 年 4 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによってJIS G 1219-1981は改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正では、国際規格との整合化を図るために、ISO規格の翻訳を**附属書1**として規定し、また、使用されていないチオ硫酸ナトリウム滴定法を廃止している。

JIS G 1219には、次に示す**附属書**がある。

附属書1 2,2'-ジキノリル吸光光度法(ISO 4946)

附属書2 ネオクプロイン抽出吸光光度法

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和29.3.29 改正：平成9.4.20

官報公示：平成9.4.21

原案作成協力者：社団法人 日本鉄鋼連盟

審議部会：日本工業標準調査会 鉄鋼部会（部会長 木原 諄二）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

鉄及び鋼—銅定量方法

G 1219-1997

Iron and steel—Methods for
determination of copper content

序文 この規格は、**附属書1**に1984年に発行されたISO 4946, Steel and cast iron—Determination of copper content—2, 2'-Diquinolyl spectrophotometric methodを翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成した日本工業規格であるが、対応国際規格には規定されていない規定事項を日本工業規格として追加している。

なお、この規格で点線の下線を施してある“参考”は、原国際規格にはない事項である。

1. **適用範囲** この規格は、鉄及び鋼中の銅の定量方法について規定する。
2. **引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版を適用する。
 - JIS G 1201 鉄及び鋼の分析方法通則
 - JIS K 8005 容量分析用標準物質
 - JIS Z 8402 分析・試験の許容差通則
 - ISO 4946 Steel and cast iron—Determination of copper content—2, 2'-Diquinolyl spectrophotometric method
3. **一般事項** 定量方法に共通な一般事項は、JIS G 1201による。ただし、JIS G 1201は、**附属書1**には適用しない。
4. **定量方法の区分** 銅の定量方法は、次のいずれかによる。
 - (1) **2, 2'-ジキノリル吸光光度法(ISO 4946)** この方法は、銅含有率0.02 % (m/m)以上5 % (m/m)以下の試料に適用し、その定量方法は、**附属書1**による。
 - (2) **ネオクプロイン抽出吸光光度法** この方法は、銅含有率0.002 % (m/m)以上1.0 % (m/m)以下の試料に適用し、その定量方法は、**附属書2**による。